新潟県立長岡工業高等学校同窓会東京支部会報

東京支部だより

第　２１　号

発行人：支部長　金井 博光

編　集：会報編集委員会

ご挨拶

支部長　金井 博光(S44M)

新型コロナウイルス対策で 5 回のワクチン接種を経験しました。感染対策が日常化しております。今ではマスク生活が当たり前となり、装着している時の安心感と外す事の抵抗感が共存しております。こんなコロナ禍ですが、昨年 10 月 22 日（土）に母校創立 120 周年記念式典が懐かしさの残るあの体育館で行われました。記念すべき式典に参加できた事で多くの感動をいただきました。

5 月 17 日の「記念のぼり旗」贈呈式から始まり、8 月 3 日には創立 120 周年記念の大花火打ち上げ、10 月 22 日の記念式典ではインターネットでのライブ中継、及び午後からの交流懇親会と、全ての行事を完遂された関係者皆様のご努力と実行力に深く感謝申しあげます。当初、生徒は教室のＴＶからライブ中継での 120 周年記念式典を見守る計画でしたが、長井英幸校長の想いから「3 年生だけでも同席させたい」が実現し、粋な計らいは県の教育委員会を納得させての実現だと推察しております。

山下進同窓会長が提唱する「振り返って 前を見る」を基本に同窓会が主体となった 120 周年記念行事も多々実施されました。「振り返って」は、東大工学部機械工学科の第一回卒業生であった荒川新一郎初代校長の紹介に始まり、マンドリンクラブによる演奏を CD-ROM 化したり、創立 120 周年記念号として発行した小史には、母校の歴史や歴代の長工大賞が全て収録されたりで記念に残る保存版となりました。

「前を見る」では、これから育つ後輩に託す意味から、長工インターネット放送局の開設、体育館への大型スクリーンとプロジェクターの設置、ロボット制御を学ぶアーム型ロボットの提供等、技術者養成に向けた設備を寄贈しております。ロボットは新潟県からの予算も得て、二台を同時利用することができる事になりました。

これらは、同窓の皆様を始め応援いただきました企業や団体からの寄付を受けて実現できました。教育設備は準備できましたが、これからは「技術者を育て上げる仕掛け」が必要となります。今後は関係各位が試行錯誤の連続になると考えます。母校の教職員の努力と継続性に期待するのは勿論ですが、同窓としての役割も重要になると考えます。企業がどの様な技術者を望んでいるのか、その技術者を育成するには企業としてどこまで踏み込んだサポートができるか。長岡地域産業の未来を見据えた発展のため、日本全体の工業界のため、私達同窓が果たすべき役割は何か、第一戦をリタイヤした同窓であったとしても、今でも役に立てる部分は無いのか、等が後輩に期待される同窓会になると感じております。

父兄においては工業高校に入学させるからには、自前のノートパソコンを買い与え、3D の設計ソフトや、それが動く高機能 PC を用意する等の出費も念頭に、我が子の未来を見つめる必要があると考えます。学校の設備だけでは自宅に戻ってからの予習復習はできません。自宅でも PC で学べる環境が必要です。

卒業してゆく生徒の半数は就職で、残り半数が進学の時代になって来ました。究極な話しをすれば工業高校の定員は半数で良く、残りは普通高校でも良い事になります。

母校の存在意義を見直す時期に入って参りました。今回の寄贈品を活用し、長岡工業高等学校出身者が貴重な技術者として、価値ある人材として、世に送り出せるよう同窓会の役割も変わってゆかなければと感じました。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

創立 120 周年記念式典を終えて

長岡工業高等学校 校長　長井 英幸

長岡工業高等学校同窓会東京支部の皆様方には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援をいただき、感謝申し上げます。創立 120 周年記念事業では、長岡工業高等学校同窓会の皆様から、教育環境の整備として、「体育館に大型スクリーン（300 インチ）とプロジェクター」、「実習機器（CNC フライス型）及び DENSO ロボット COBOTTA」を寄贈いただきました。ありがとうございました。末永く、大事に使用させていただきます。

令和４年 10 月の創立 120 周年記念式典においては、新型コロナウイルス感染症の対応から、来賓、同窓会、企業、保護者、全校生徒が一堂に会した式典にすることができませんでしたが、式典会場の体育館の参加人数を制限して、3 年生は式典に出席させ、1・2 年生はオンラインによる各教室での参加としました。在校生に創立 120 周年について

聞いてみると、「歴史と伝統のあるすばらしい学校であると感じた」、また、「多くのご卒業された方々が、地元産業界のみならず、全国各地において、政治、文化・芸術、教育など多くの分野でも活躍されていることがわかりました」という感想がありました。また、ご出席いただいた同窓会、企業の方からは、「3 年生の式典での態度がとても良かった」というお褒めの言葉をいただきました。そして、式典が無事に終えたことに長岡工業高等学校同窓会の皆様方に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

創立 120 周年記念式典

さて、本校は、現在、社会情勢の移り変わりや時代の要請により学科改編を行い、生徒の適性や進路希望に合わせた学習内容の選択を可能にしています。

また、生徒が将来の技術者、技能者に成長するために必要な基礎・基本を身につけることを主眼としながら、実社会での産業活動を意識し、インターンシップを通した職業観の育成や、実習や課題研究等を通じた「ものづくり」感覚の定着と自己評価能力の育成、グローバル化する時代に対応できる英語力の強化、各種大会やイベントへの積極的参加による自己有用感、達成感の獲得などに重点を置いた教育活動を行っています。

長工大賞授賞式の様子

そして、地域の産業界からの参画を求め、協働いただく中で、より実践的な工業教育を展開することにより、自ら積極的に考え工夫することができる人材、そして、エネルギー・環境、感染症問題、国際社会の政情不安の対応や情報技術の変革による IT、AI、IoT の作り手、担い手、高い専門性を持ち、地域の産業界に貢献できる人材育成をしております。

最後になりますが、本校と長岡工業高等学校同窓会東京支部と関係者の皆様が 130、150、200 周年と末永く発展しますことをご祈念いたしまして、ご報告といたします。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

「母校創立 120 周年記念事業は近未来の社会へのインパクト」

同窓会本部 前副会長　樋口 榮治(S41W)

新潟県立長岡工業高等学校創立百周年記念「3 代目長工会館」建設並びに「工業教育歴史資料館」設立、最後の同窓会会員名簿発刊～110 周年記念「小さくても光り輝く事業」として「記念碑の建立：蛍と平和 匠の世界」並びに「同窓会の法人化」「米百俵：蛍基金の創設」「長工大賞の制定」等 12 事業～120 周年記念「振り返って　前を見る　そして未来を担う！」をテーマとして 8 事業を展開しました。

コロナ禍で定時総会を開催することができない状況が続く中で「120 周年」を迎えました。山下進会長を推戴した立場から逃げるわけに行かず、先輩が築きあげた「母校」の節目を飾り後輩に引き継ぐ使命を覚悟し、腹を括りコロナ収束を願いつつ理事を中核とする「チーム山下 120」を結成し延べ 30 数回を重ね 10 月 22 日創立 120 周年記念式典にゴールすることが叶いました。

この間「短期決戦」を合言葉に、最重要ポイントは「米百俵：蛍基金」に賛同いただけるかどうかが課題でした。「米百俵：蛍基金」を 120 周年のフラッグとすることを決定し、後輩の「教育環境」を支援するための募金活動となりました。目標額 1,100 万円を実現する苦悩が 2 ヶ月続きましたが 7 月末日には何とか目処がつきました。

120 周年記念事業の推進は、在校生を巻き込むことも大きなテーマでありました。そこで、「120 周年記念のぼり旗」をデザインし校友会役員が選定したものを生徒玄関に飾り付け校内の雰囲気づくりを試みました。また、「会報：特集号 120」の表紙デザインは、同窓会実行委員会並びに在校生の投票によって決定しました。

出船した「チーム山下 120」丸は、大先輩の夢を実現する「長岡大花火大会」に着目し花火を打ち上げたい！～～120 周年＝尺玉 12 発打ち上げられればいいなー！と声掛けしたところあっという間に賛同（大口に感謝）いただき、コラボレーション花火を同窓のピカイチ CEO 佐々木啓之さんの協力で 8 月 3 日東京支部花火ツアーのみなさんの前で見事に花開きました。万歳＝長陵！！！

創立 120 周年記念式典は母校体育館で在校生を代表して 3 年生が参列、内外の来賓、同窓会 OB の参列のもと厳粛な中に「長工魂」が漂う空気の中で記念式典、記念講演会、長工大賞授与式、さらに「長工 120 未来交流懇親会」が盛大に開催されました。その内容は、事業の中の「インターネット放送局」として、全国・全世界に YouTube を通して配信され、今でも映像をご覧いただくことが可能です。

紙数の関係から打ち止めですが、内外の多くの皆様に伏して感謝・お礼を申し上げます。

【詳細は、会報第 66 号 令和 5 年 2 月発行を参照ください】

特集記事　長工大賞受賞者（東京支部）

「長工大賞」をいただいて

川澄 昴(S38E)

「長工大賞」という身に余る栄誉を賜り、わたくしのこれからの人生の励みとなります。

私が就職した昭和38年当時は「仕事が人生の全て」であり、「会社人間」であることが普通のことでした。そんな中で長工同窓会での集まりは、仕事を離れての社会との接点でした。

同窓会の活性化を図るとの目的で、平成13年、東京支部では、これまで電気会・機械会など課別に活動していた課の壁を無くす組織改編をしました。昨今、多様性が声高に喧伝されていますが、20年以上前に長工同窓会では活動多様化の組織改編をしていたのです。今日の同窓会東京支部が順調な運営を継続できていることは、当時の東京支部長や幹部皆様の慧眼であったと恭敬するばかりです。

東京支部の会合や行事作業での交わりの場では諸先輩の豊かな生き方や人柄を知るにつけ「もっと深く交歓したい」と思っていました。常々は単独で登山していましたので山登りの仲間を募ったところ、それぞれに実績のある山仲間が集まりました。会の愛称 LMC(L:Liberty 自由・奔放な)は樋口現顧問(S29E)が「名付親」です。厳冬期は丹沢山塊、夏季は北岳、南ア縦走、九州遠征では阿蘇九重山で「坊がつる讃歌」を歌ったのが楽しい思い出です。

「ジョギング同好会」を小嶋さん(S37C)が立ち上げ、さらに、当然のように「ゴルフ同好会」「散歩クラブ同好会」「コーラス部同好会 LGC」とサークル活動発足の輪が広がることとなりました。

これから職場の仲間入りをする若い人には「長工同窓会は先輩後輩の関係性以上の交歓の場」であることに期待して新しい風を吹き込んでほしいですね。

さて、「長工大賞」受賞の紹介文に東日本大震災被災地でのボランティア活動の記載がありましたのでそのことに少し触れておきます。被災地支援活動参加者の「衣食住」は自己責任ですので幕営自炊としました。登山同好会LMCでは毎年のように幕営自炊をしていましたので、その体験を活かすチャンスであり、水・電気・食料は車で調達でき水洗トイレまである恵まれすぎた幕営などLMCにとっては何の問題もないとLMCのメンバー6人が早速参加すべく梅雨明けを待って5月下旬震災被災地に入りました。

支援活動の詳細は、勝沼正敬さん(S36E)記載の下記の報告記事をご覧ください。

・長工同窓会東京支部HP 登山同好会(LMC)「南相馬市でのボランティア作業を終えて」

・本部会報66号 令和5年2月発行「福島県南相馬市でのボランティア作業を終えて2013年5月19日～」

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

人生の勲章「長工大賞」

広報・記録担当兼名簿担当理事　野﨑 敬策(S46e)

昭和 46(1971)年 3 月新潟県立長岡工業高等学校電子科を卒業し、松下電器産業(現Panasonic)に入社した。最初の勤務地は大阪門真の中央研究所内の技術本部技術能力開発室だった。ここでコンピュータをしっかり学ばせて頂き、3年後には横浜の松下通信工業へ出向となった。2003年3月までITS（高度な交通社会）実現のため様々な交通システムの研究開発、実用化に携わった。警察交通管制システムでは信号制御パラメータ（サイクル・スプリット・オフセット）の最適設計自動システム等も行った。犯罪捜査に活用されている車両ナンバープレート自動読み取りシステム(Nｼｽﾃﾑ)は世界初だった。高速道路各種システムではハイウェイラジオやトンネル防災システム、渋滞予測・旅行時間推定システム等も行った。世界初の路車間通信によるVICS（道路交通情報通信システム）や狭域無線通信(DSRC)による双方向通信（アクティブ方式）のETC（有料道路料金自動収受システム）は現役最後のシステム開発となった。マスコミやメディアにも取り上げて頂き、雑誌やTV出演も果たした。

満50歳で松下を早期退職後は第二の人生、交通ジャーナリストとして歩み出した。現役当時から大学等の学識経験者や官庁・民間企業の有識者と繋がりを持った事から、第二の人生は学会活動を主体として講演や座長、論文執筆、学生達の論文発表へのコメンテータを務めた。国際会議にも欧米、アジア等の各国に出向いた。また、大学でも暫く大学院生に対し講義を行った。さらに、自動運転や安全運転支援の研究、地球温暖化対策としての交通社会の有るべき姿等を政策提言した。これらは全て自身にとっての宝物（経験）となった。

昨年（2022年）10月、栄誉ある「長工大賞」を母校創立“120周年記念式典”で頂いた。2万7千名を超える多くの卒業生の中でこの大賞を頂けた事は感謝の一言に尽きる。一方、今現在も様々な分野等で活躍された方々が沢山居ると思われる。是非、自薦他薦を問わずこれからも母校の学生達の励みになる「長工大賞」受賞者を輩出される事を切に願う。

最後に「長工大賞」を人生の勲章として母校発展の為、固く深い絆で結ばれている事を心に抱き続けたい。

会員だより

随想

顧問　樋口 昭(S29E)

昨年母校120周年は偉大で有り、その記念式典等 関連祝賀行事は実に意義深いもので有った。「人生の『峠』は～苦楽120の峠を越えて～」に相応しいもので有り同窓生の誇りで有る。本部、関係各位の労を犒います。

国際情勢は驚くべき想定外の変転を強いられている。新型コロナ禍は3年過ぎとなり、感染防止の基本を守り、With COVID-19に生き、生活の向上を図る。

露軍 ウクライナ侵略戦は長期化停戦の予測不能、停戦には双方が納得し世界的な大義名分が必要である。核戦争に発展することも想定し、対応が必要である。ウクライナ国民の愛国心、国土防衛、義務感、情熱等、国民感情は如何ばかりか、80 年前の日本国の一億総決起に想いをする。早期に安全・平和を祈る。豊かな穀倉地帯に戻って欲しい。

中、北、台の情勢等、国際秩序を擁護する我が国は「反撃能力強化」自主防衛は費用を要することは当然の事。増税を拒む諸氏に問う、我が国の繁栄、国民の生命財産をどう守るのか、その真意を聞き度。

―森の火事で生き物たちが逃げ惑う中で、1羽のハチドリがくちばしに水を含んで一滴ずつ落した。「そんなことして何になる」の声に「私は 私に出来ることをしているだけ」。南米に伝わる「ハチドリのひとしずく」の物語―に思いをする。

安倍事件、統一教会等々、日本の安全神話の崩壊、憂える。地球温暖化、異常気候変動に依る自然災害の防御。－日本雨水資源化システム学会に席を置く者として－、「恵の雨」、雨水利用から、1時間雨量100㎜、24時間降水量400㎜ゲリラ豪雨対策が急務で有る。5月に広島でG7サミット開催、世界の首脳者会議 地域情勢の違いはある、主導役割を果たして、国連安全保障理事として世界平和、繁栄に努めて欲しい。

時代は変われど尊い日本の伝統文化、道徳、武士道の厳守、伝承を望む。社会構造が改革と成るも、同窓会の目的「会員の親睦、交流、絆」「母校の教育方針の支援」等、120 年余の伝統ある長工精神「質実剛健」を継承・堅持し、多様化する価値観を受容し、各種・各界と交流親交を広め見聞を深め「共通の価値観の創造」が同窓会活動を活性化するものと思います。

世代が繋がる
心が結ばれる
同窓の絆は永遠

を理念に長工精神を継承し、伝承し、東京支部の発展を願い、母校、本部の益々のご隆盛をご祈念申し上げます。

長工健児此処に在り
国の栄をいざ図れ

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

日本経済の現状

松永 巌(S20M)

私が大学院3年を終えて昭和28年入社した時の初任給は5,260円、昭和25年卒業と同時に大洋漁業に入社した者が最高で月1万円。比較して高い方ではなかったが、34年後の定年退職の時の月給は有に100倍の50万円を遥かに超えていた。それに較べて現在入社時の何倍になっているか？　私は国力の伸びの違いと思う。昭和 20 年代と言えば、終戦後間もない頃で、国民一同働く事に情熱を燃やしていた。私などは世界中を飛び廻って新機種を探した。現在未曾有の金融緩和、日銀が印刷した札は何処へ行った、我々の懐に入る事なく。金で金を儲ける族(やから)に行ってしまう。つまり、少しも生産に寄与する事なく“死せる金”になる。金は仕事に廻さなければ意味がない。米国三菱重工を設立した時に、時の三菱銀行の中村俊男頭取が全米の支店長を連れて見えた時、私は「金を借りてくださいではなく、仕事を持って来てください。そうしたら金は幾らでも借りてやる」と言ったら、頭取は「今の話聞いたか？その通りだ」と言われた。今の政府も「給料上げろ！！」ではなく、政府が「こんな仕事を出すから働いて稼げ」と言うべきである。終戦後仕事が無かった頃、政府は戦中沈んだ船舶の補充と油を始めとする物流のための大形船建造を進め「第五、六次計画造船」と銘打って受注、建造の援助をした。何んな仕事でも良い。例えば「全国の電線地下埋設」「自然エネルギー開発」「森林の再開」「台風、洪水等の自然災害対策」「魚類養殖」等々、政府が援助すれば大仕事になる。又将来の夢を追うプロジェクト「電池で飛ぶ電気飛行機」「金魚鉢のような立体テレビ」「物質の伝送」「万能半導体」等々考えただけでも楽しくなる。

何故日本が弱くなったか？　私はコスト・ダウンを追求したからだと思う。何でも価格競争すれば良いもの、新しいものは出来ない。入札制度も問題。手抜き、材質のグレード・ダウン、データーの改ざん、下請けいじめ等の不正を誘発。低コストを求めて中国、東南アジアに製造を移せば技術の流出と国内の空洞化を生じる。今将にこの状態にあると思う。コストが多少上がっても良い。仕事を早く取り戻して皆が仕事をする事だ。国力が着けば日本円も強くなる。金融緩和一本槍の日銀の政策も大失敗。働かない族を増やし、貧富の差を拡げ、日本を空っぽにした。中小企

業に賃金を上げろと言うのは全くもってナンセンス。飯を食ってない者や、病気の者に働けと言っている様なもの。政府も後追いばかりではなく、率先して国民が働いて稼ぐ方法を考えるべきである。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

アートだよ人生は　！

貝瀬 利一(S32E)

昨年 8 月、小生の人生劇場第 2 幕、版画の場は、版画人生 30 年の集大成となる「貝瀬利一版画の世界展」をフィナーレに千秋楽となりました。

コロナ禍、第 7 波のピーク時にもかかわらず、北は仙台市、西は京都市の皆々様から、駆けつけていただき、また身に余る賞賛のお声をいただき、作家冥利に尽きる、至福のひと時に感謝しています。第 2 幕の演目を「版画」にした理由は、たまたま「版画になった」と言ったほうが正確で、まだ、60 歳定年時代で退職後は、趣味の世界で優雅に過ごすのがいい、などと言われていたころで、自分は何をやったらいいか考えていたとき、あるコラムに、“少年期に得意だったことをやればいい”とありました。

この機会に、版画を基礎から勉強しようと思い、現役中でしたので、夜間の“渡辺欣次・木版画教室”に入校したのが平成元年 9 月、平成 13 年に同教室を自主卒業して、平成 14 年 8 月「美の里・版画教室」の開講から、第 2 幕の開演です。

県展・芸展・版画フォーラム・日本版画会を背景に東欧を中心に 6 か国での展覧会・ワークショップが主役です。特に、令和元(2019)年の「日本・ギリシャ現代版画交流展」が契機となり、ギリシャ版画家協会との交流が始まりました。この様な舞台を演じられたのも、偏に皆々様からいただいた、ご厚情の賜物と深謝申し上げます。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

高野之夫 豊島区長と私

総会･懇親会担当理事　中島 義春(S46e)

私の豊島区議会議員時代を振り返ってみたいと思います。縁あって平成 11 年より 5 期 20 年間議員をさせて頂きました。本年 2 月に豊島区長 高野之夫氏が現役で逝去されました。同じ平成 11 年の区長選で初当選され、いわゆる同期でした。区長と共に豊島区の改革に取り組み、夕張市と匹敵するぐらい豊島区の財政状況は厳しく、区民サービスを極力維持しながら事業の補助率の見直しや、区長、副区長、議員、職員の報酬カット等、大胆に実行して立て直してきました。

また、「暗い、汚い、怖い」いわゆる 3K の池袋を今は芸術劇場、野外劇場を設置。旧庁舎跡地にはシアターホールや劇場を抱える「ハレザ池袋」など文化施設が多数ある池袋によみがえらせました。

さらに消滅可能性都市からの脱却､23 区中初の保育園待機児童 0 にするなど･･･忘れられないのは豊島区制施行 70 周年の時、私の提案で豊島区の歌を作ることになり、歌詞を公募し、「さだまさし」さんに曲を作っていただきました。

「としま未来へ」の歌が完成し今では学校だけでなく、いろいろな場所で歌われるようになり、カラオケにも入っています。思い出せば様々なことに、区長と共に戦い抜いた 20 年間でした。

現在は議員を 4 年前に引退して、現役中に直面した老人のアパート入居の困難や困りごとの相談の為、事務所を立ち上げ奮闘しています。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

バイクと共に

星 紀夫(S45M)

在校時の一番の思い出では、バレーボールを一生懸命やったことです。1 年生の時はよく練習をサボりましたが、マネージャーの片桐先輩や部長の田中先輩に優しく見守っていただき 3 年間続けることができました。そして次が応援練習、辛かったけど今となっては懐かしい思い出になりましたよね。

レストアしたモトクロッサーと
(2023 年 2 月)

さて、当時の少年は皆 16 歳ごろになると熱病のようにバイクに恋い焦がれたものです。私も例外ではなく誕生日がくるとすぐに免許をとり乗り回すようになりました。しかし若気の至りで根拠のない自信を持っていたもので、今思い返して冷や汗の出ることもありました。

モトクロスレースにも憧れていて、埼玉の自動車工場に就職すると社内クラブのオートバイ部に入りました。モトクロスは荒地を走るとても体力

を使う競技で、スポーツが好きな私にとってすごく魅力的でした。仕事でもモトクロッサーの設計部門に配転になり、趣味のモトクロスと仕事がうまく繋がりとても充実した時を過ごすことができました。29 歳までレースをやりましたが、最後に乗ったマシーンはバラして保管しておいたので、定年後に作業小屋を造ってレストアし、時々眺めてはニヤっとしています。

昨今バイク購入者の平均年齢は 54 歳ぐらいで、若いときバイクに乗れなかった方々が憧れのバイクを購入しているそうです。そんな中、とうとう熱病が完治しなかった私は、今でもバイクいじりやツーリングを楽しんでおり「俺なんかバイク歴 55 年だぞ」と内心鼻高々です。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

近況報告「テニスを楽しんでいます」

監事　山崎 正二(S44M)

近況の前に、私は昭和 41(1966)年 4 月に長岡工業高校機械科 C 組に入学しました。担任は笹本正司先生(後に長岡工高学校長)であり、以来、3 年間は機械科 C 組、笹本先生が担任でした。そして、同窓会会長の山下さんとは小学・中学・高校が同じでした。強く印象に残っていることは小学校の運動会で、山下さんは足が早くリレーメンバーであり、目の前を見たこともない速さで走り去る山下さんの姿は、小学 1･2 年生の私には英雄的な存在に見えました。

ここまでは支部だよりに載せて頂けると言うことで、高校時代と故郷にまつわる思い出を少し書かせていただきました。

近年の暮らしぶりは、令和 3(2021)年 1 月にそれまで 51 年間勤めた会社を退職しましたが、その年の 11 月から平塚市大神にあるグループ会社で働いており、月曜から木曜の 9 時から 16 時までの勤務です。趣味はテニスで、金曜日（名称：金曜テニスクラブ）と土曜日又は日曜日（名称：伊勢原テニス同好会）にテニスをしています。金曜テニスクラブは大磯運動公園テニスコートで 11 時から 15 時まで、同好会は伊勢原市内のテニスコートで 8 時から 10 時までテニスを楽しんでおります。さすがに、真夏の 4 時間は身体にきついときがあり、帰宅運転中に向こう脛やふくらはぎがつってしまって、必死で痛みをこらえて何とか家に帰り着くこともあります。また、コロナ感染拡大に伴い中止していた 1 年 2 回実施のテニス合宿を、去年から再開することができました。

これからも健康維持に努めてテニスを楽しんで続けられるようにしたいと思っています。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

古稀を迎えてふるさとを想う

広報・記録担当理事　竹津 弘幸(S46E)

令和 5(2023)年 3 月に古稀を迎えた。生まれ、育ちは長岡市柿（かぎ）町である。柿町は長岡駅の東南約 5ｋｍ、鋸山の南側、三ノ峠山、南蛮山の麓に位置する古代からの里山集落である。自宅の前は柿川が流れており、少し上流には貝塚があり、近くの畑には縄文時代の「山下（さんか）遺跡」があった（現在は場所の表示もされていないため過去形になる)。小学校時代に調査隊が発掘していたことがあり、私も興味があって調査隊がいない日に土器の発掘を行った。当時、新潟国体があって確かポスターに「火炎土器」の写真が使われていた。私が掘り出した縄文土器は、そのポスターを目にしていたので、正に火炎土器の破片であることを確信した。全体の約 3 分の 1 もの破片を収集できた。その他に壺などの破片を掘り出すことができ、子供ながらに貴重な資料と思い箱に入れ大切に保管していたが、母は価値が分からなかったようでいつの間にかなくなってしまった。

縄文時代は温暖で海水面が高く、この地域も柿町のすぐ近くまで海が迫っていたと思う。春の田植え時期になるとその様子が見てとれる。鷺巣から南蛮山を越える林道を高校時代にバイクで登るのが好きだったが、この季節は田植え後の水田が海面を連想させ、悠久山や国立長岡高専の丘などが海に浮かぶ島のようで、とても綺麗だった。

柿町には「白山神社」があるが、境内には樹齢 1000 年近いと思われる杉の巨木がある。参道の両脇には今も何本かの大木が残っており、切り倒された大木の切り株も幾つか残っている。当時「古志郡山通村立柿尋常高等小学校」を建てるためと聞いたが残念なことである。

18 歳までしか柿町にいなかったわけであるが、自宅の裏山には「城山」を呼ばれる山城があった。当時は稲作がしっかり行われていたため棚田も多く、日本の原風景のような里山集落だった。今は残念ながら稲作を継ぐ人は少なく、耕作放棄地が増え昔の景観は残っていない。地元を離れて約半世紀が過ぎ、残念なことであるが時代の変化を痛切に感じざるを得ない。

支部報告

総会・懇親会について

総会・懇親会担当統括理事　宮田 隆(S32E)

令和 4(2022)年の総会懇親会は、昨年 4 月の役員会で、当時の新型コロナウイルス感染状況を考えると中止せざるを得ないとの事で、前年の中止に引き続き、又々実施断念となりました。予想通り第 7 波が発生し、変異株による第 8 波が続いたことは皆様ご存じの通りです。新型コロナ感染症騒動も 3 年越しの中、第 8 波も収まりつつあり、弱毒化（?）の知見もあり、5 月には感染症の分類もインフルエンザ並の扱いにするようですが、一方で後遺症の問題や高齢者の感染が重症化の傾向が強いこと、飲み薬の開発促進など課題が山積です。

長いマスク生活やリモートワークの副作用でリアルのコミュニケーション不足の課題も指摘されています。逆風はコロナだけではありません。ウクライナ紛争の影響下で諸物価の高騰が始まり止まるところを知りません。

総会・懇親会は折角お集まり頂く会員の皆様が楽しくお過ごし頂く為に、会食や、密で会話が行える事が重要です。又、安心して会場にお出で頂ける必要があります。まだ感染対策が必要なうえ、会話や飲食にも制限があり、従来並の内容を復活させることは難しく、更に長い休止期間で関係の皆様の高齢化も進んで、心理的にも億劫になり、現時点では、従来並とはゆかず会食、会話、演芸には若干の不便は許容せざるを得ません。継続は力なりと言いますが、一旦止まったものを動かすには従来以上の加速力が必要です。3 回連続での休止で、このまま休止が続く事態は如何にしても避けたいとの想いで、現状の制限下での実施を模索していました。

感染防止に配慮してのスタイルでまずは始めてみることが肝要かと思います。本年 7 月 1 日に予定した総会・懇親会の実施判断について、状況の推移を見ながら、諸般の事情から 3 月中には決断しなければなりません。

上記の状況を踏まえ 3 月 11 日の支部役員会で検討した結果、総会・懇親会を開催することに決定しました。コロナ禍を乗り越え、再び皆様にお目にかかれる日を楽しみにしております。

◇*◆*◇*

支部会計報告

会計担当統括理事　今井 広(S46M)

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。コロナによる支部活動が制限される中、このような状況下で皆様から年会費・寄付をお支払いいただきまして誠にありがとうございます。令和 4(2022)年度もお陰様で予算を上回ることができました。ひとえに皆様のご支援、ご理解の賜物でございます。

母校創立 120 周年の大きな節目を迎え、会員の絆を強く感じた年でした。東京支部活動が今後も持続していくためには原資が必要です。これからも皆様のご支援、ご理解をどうぞよろしくお願いいたします。

ところで支部創設 40 周年記念及び母校創立 120 周年記念のタイミングにおいて、匿名希望の方から、2 度に渡り多額の寄付をいただきました。いただいた資金は、皆様からご入金いただく「年会費」とは別口座にて管理しております。この寄付は記念行事の様な金額の大きな一時的な出費において、有効に活用させていただいております。

令和 4 年度寄付者一覧（敬称略)

No.	会員番号	氏 名	金額	No.	会員番号	氏 名	金額	No.	会員番号	氏 名	金額
1	S20M0460	松永 巖	1,000	14	S33E0140	小出 正道	2,000	27	S42M025D	白井 等	1,000
2	S26M0200	佐野 昭一	1,000	15	S33E0390	山川 昭男	3,000	28	S44M038B	横山 実	2,000
3	S28M023A	土田 進	2,000	16	S34C0340	星野 卓史	2,000	29	S44M038C	山﨑 正二	3,000
4	S28W0290	並木 政治	3,000	17	S34M008A	大渕 平祐	1,000	30	S46e0240	野﨑 敬策	8,000
5	S29E0260	土田 弘明	1,000	18	S34W0170	島田 輿五郎	3,000	31	S46E025B	竹津 弘幸	1,000
6	S30E0330	星 清善	1,000	19	S35E0210	杉本 久栄	1,000	32	S46M005B	今井 広	8,000
7	S30M036B	矢久保 篤司	8,000	20	S36E0140	川村 吾一	3,000	33	S46M014D	児玉 幸一	1,000
8	S31E0080	大関 稔	1,000	21	S36E0370	星 富夫	3,000	34	S46M020C	塩入 晴夫	1,000
9	S31E0240	近藤 宗一	1,000	22	S37e0150	木間 勝	6,000	35	S46M027A	原 勝英	3,000
10	S31W0120	片桐 謙一	1,000	23	S37e0280	高橋 大二	2,000	36	S46M032A	松本 彰	3,000
11	S32E0370	宮田 隆	3,000	24	S38W0010	相澤 功	1,000	37	S48E026B	永見 健治	1,000
12	S33C0220	反町 賢吉	2,000	25	S40C0130	加藤 智	3,000	38	S56M034A	星 武彦	1,000
13	S33E0120	金子 正元	2,000	26	S40C0150	小坂井 明	1,000	39	ー	匿 名	200,000
								合 計			291,000

訃報

名簿担当統括理事　塩入 晴夫(S46M)

次の方々がご逝去されたとの連絡がありました。謹んでご冥福をお祈りします。

卒業年	科別	会員No.	お名前	ご逝去年月日	備　考
昭和 24	電気	S24E	吉村 修一 様	令和 4 年 8 月 23 日	
昭和 27	機械	S27M	山本 貞夫 様	不明	
昭和 29	電気	S29E0310	二宮 守栄 様	令和 4 年 9 月 27 日	
昭和 29	機械	S29M042A	吉川 榮三郎 様	令和 4 年 8 月 29 日	
昭和 31	電気	S31E0200	反町 忠夫 様	令和 4 年 5 月 31 日	
昭和 33	電気	S33E0380	柳 秀次 様	令和 4 年 7 月 7 日	
昭和 33	機械	S33M	大平 悦三 様	令和 4 年 8 月 3 日	
昭和 35	機械	S35M002A	池田 邦夫 様	令和 4 年 5 月 30 日	
昭和 37	電子	S37e0170	佐藤 昭彦 様	令和 4 年 5 月 30 日	
昭和 37	機械	S37M026B	館野 進 様	令和 3 年 11 月 20 日	
昭和 38	電気	S38E	木村 誠治 様	令和 4 年 4 月 27 日	
昭和 38	機械	S38M010B	内山 伸夫 様	令和 4 年 6 月 4 日	
昭和 45	化学	S45C0370	山田 文夫 様	令和 4 年 5 月 4 日	

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

ホームページについて

ホームページ担当統括理事　奈良場 慶三(S46E)

いつもホームページをご覧いただきありがとうございます。今回はホームページの仕組みについて少し述べます。ホームページはHTML と CSS のテキストファイルと画像ファイルで構成されています。HTML は WEB 用のプログラミング言語で文章とともに画像が Web ページのどこに何が表示されるかを指定します。一方 CSS は HTML の表示レイアウトを装飾するためのもので画面のレイアウトを整えて見栄えの良い Web ページにします。

このHTML と CSS 及び画像をブラウザ（Edge や Chrome）でアクセスすることでホームページとして見ることができます。ブラウザは一時期 IE、Opera、Chrome、Firefox 、Safari など多くのアプリがありブラウザによって画面表示が違うということがありました。このため、ホームページを作成したあと何種類かのブラウザで画面を確認する必要がありました。現在は W3C が勧告した「HTML5」から WHATWG が取り決めた「HTML Living Standard」が標準仕様となり、マイクロソフトも IE(W3C)から Edge（WHATWG）に移行しています。

東京支部ホームページは支部会員皆様のページです。是非ご覧ください。

編集後記

広報・記録担当統括理事　川村 吾一(S36E)

新聞等の報道によれば国内のコロナ禍の影響はかなり制約が解除されつつあります。ロシアのウクライナ侵攻の悲劇の終息見込みは目下不透明です。

令和 4 年 10 月母校・長工創立 120 周年記念式典が開催されました。本式典の素晴らしい内容に関し ①長工校長 長井英幸様、②同窓会本部 前副会長 樋口榮治様 から格調高いご執筆を賜り、東京支部だより第 21 号の紙面を飾らせていただき厚くお礼申し上げます。特集記事として前述記念式典で栄誉ある「長工大賞」授与された東京支部会員の川澄昴、野﨑敬策 各位から感動の投稿をいただき感謝申し上げます。

コロナ禍で中止されていた我が東京支部総会・懇親会が、令和 5 年 7 月 1 日に 3 年振りに開催することが役員会で決定されました。東京支部活動の活性化には貴重な機会であり開催の際は総力を結集し成果を共有したいと思います。

今後共伝統ある「東京支部だより」発行に格別のご支援・ご協力を賜りたく何卒よろしくお願いします。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

編集委員

委員長	川村 吾一	(S36E)	委員	塩入 晴夫	(S46M)
委員	永井 利矢	(S44M)	委員	今井 広	(S46M)
委員	竹津 弘幸	(S46E)	委員	野﨑 敬策	(S46e)
委員	加藤 智	(S40C)	委員	中島 義春	(S46e)
委員	奈良場 慶三	(S46E)			

東京支部ホームページの閲覧は
「長工同窓会東京支部」で検索するか次の URL を入力　https://choko-tokyo.sakura.ne.jp

スマートフォンは右の
QR コードから